

展示室4 山口 薫 2018年4月14日(土)～6月17日(日)

山口薫(1907-1968)は、群馬県の榛名山麓の村、箕輪(現・高崎市箕郷町)に、11人兄弟の末子として生まれました。1930年に東京美術学校を卒業してから3年間フランスに留学。帰国後は滞仏時代の友人である村井正誠、矢橋六郎らと新時代洋画展、自由美術家協会、モダンアート協会を次々と結成し、それらを拠点に日本におけるモダンアート運動の中心的な存在として作品を発表し続けました。抽象と具象の微妙に溶け合ったモダンな造形の中に叙情と幻想をたたえた心象風景を描いたその作品は、国内外で高く評価されています。

当館では、群馬県を代表する作家の一人として開館当初から山口薫の作品を収集し、現在、油彩画だけでも50点を超える作品を収蔵しています。今年、山口薫の没後40年の節目を迎えるにあたり、学生時代から最晩年まで各年代を代表する作品を選びすぎり、22点をご紹介します。

No.	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	初出展覧会	備考
1	卓上の静物	1927(昭2)頃	油彩・カンヴァス	50.0×60.6		
2	動物園の風景	1928(昭3)頃	油彩・カンヴァス	50.0×61.0		山口マサ氏寄贈
3	緑衣の女	1931(昭6)頃	油彩・カンヴァス	92.0×72.7	第8回国画会展(1933)	
4	緑衣横臥婦人像	1931(昭6)頃	油彩・カンヴァス	73.2×92.0		作者寄贈
5	広場の十字架	1933(昭8)	油彩・カンヴァス	65.2×80.5		
6	裸女	1934(昭9)	油彩・カンヴァス	92.0×65.5	新時代洋画展	山口マサ氏寄贈
7	赤城の裾野	1935(昭10)	油彩・カンヴァス	65.3×80.3		高崎高等学校同窓会寄贈
8	地の星「娘と花」	1937-47 (昭12-22)	油彩・カンヴァス	38.0×45.6		
9	紐	1939(昭14)	油彩・カンヴァス	100.0×80.0	第3回自由美術家協会展	
10	蝸壺など	1939(昭14)	油彩・カンヴァス	80.3×100.0	第3回自由美術家協会展	
11	水	1941(昭16)	油彩・カンヴァス	79.8×99.8	第5回美術作家協会展	
12	クリスタル壺	1948(昭23)	油彩・カンヴァス	99.5×80.2	第12回自由美術家協会展	山口マサ氏寄贈
13	花子誕生	1951(昭26)	油彩・カンヴァス	100.0×80.0	サロン・ド・メ展(1952)	
14	林の幻影	1953(昭28)	油彩・カンヴァス	130.2×162.3	第3回モダンアート展	
15	ノートルダム	1954(昭29)	油彩・カンヴァス	99.5×90.8	第4回モダンアート展	
16	孤独者のすまい	1955(昭30)	油彩・カンヴァス	130.3×162.3	第3回日本国際美術展	井上工業株式会社寄贈
17	白痴の愛(あやこ)	1955(昭30)	油彩・カンヴァス	91.0×72.6	第3回日本国際美術展	群馬銀行寄贈
18	矢羽根飛ぶ	1959(昭34)	油彩・カンヴァス	130.5×161.8	第5回日本国際美術展	
19	サラサラ粉雪ふる	1960(昭35)	油彩・カンヴァス	130.3×162.0	第4回現代日本美術展	
20	水田を飛ぶカーチス式 軽飛行機	1964(昭39)	油彩・カンヴァス	130.5×162.0	第3回国際形象展	群馬銀行寄贈
21	水門の裏と表	1965(昭40)	油彩・カンヴァス	72.8×91.0	第4回国際形象展	
22	金環色(蝕)の若駒	1968(昭43)	油彩・カンヴァス	100.0×80.5	第18回モダンアート展	山口マサ氏寄贈